

各学校の実践から学び、 自分の授業での実践につなげる「小・中合同研修会」

B:校内研修Ⅱ型(講師設定型の研修)

こんな先生方の姿が生まれました!

- 教科ごとに分かれて交流を行うことで、教科の特性に合わせた効果的な ICT の活用の仕方を検討・共有することができた。
- 教科ごとに積極的に ICT を活用し、その活用方法について校内で共有することができた。

夏休みの小・中合同研修会でのグループ交流

研修会で ICT を効果的に活用した実践から学び、 教科の特性に合わせた活用の仕方を検討・共有

- ・各校に導入されている学習支援ソフトを活用し、児童・生徒が考えを共有したり、共同製作したりした実践について発表をした。
- ・実践発表後、教科部会で、児童・生徒に力を付けるために、今後、授業のどこに ICT を活用するとよいか検討し、その内容について ICT を活用して共有した。

<活用案>

- ・「カフート」を活用し、既習事項の確認や小テストを行う。
- ・単元の導入や振り返りの時に、アンケート機能を使うことで、子どもの意識の変容をつかむ。



合同研修会のポイント

- ICTを活用する場面の悩みを出し合いながら、有効な活用方法を模索し、今後の実践につなげる。

研修会をもとに、各教科での授業実践



技術科

～「カフート」を活用した情報共有～

- ・「カフート」を活用して、単元導入時に単元の確認クイズなどを行った。生徒一人一人の解答を本人と教師が共有できるため、復習のポイントを見付けやすくなった。

社会科

～アンケート機能を活用した学習前後での 生徒の意識の変容の把握～

- ・協働学習支援ツールのアンケート機能を用いて、単元の導入時と振り返り時に生徒の学び方に対する意識調査を行った。その単元で身に付けたい見方・考え方について、誰がどのように変容したと感じているのか把握することができた。



ICT 活用のポイント

- 生徒一人一人が操作したり、自分の考えを表現したりする場面で活用する。
- 素早く情報共有することで生み出された時間を、他の学習活動に充てることできる。